

新しい文化財が仲間入り～令和元年度鹿児島県指定文化財～

文化財課

令和元年度県指定文化財

平成31年4月19日に、県指定文化財として6件を指定しましたので紹介します。これで県指定文化財は合計305件となりました。

有形文化財（3件）

霧島民芸村（展示販売棟、旧遥拝殿及び工房棟）

霧島民芸村は、建坪300坪の巨大な木造建築で、昭和15（1940）年竣工です。戦時下の教育に対応すべく、中堅指導者の再教育を目的として建てられました。主屋は、屋久杉の格天井（ごうてんじょう）を持つ84畳敷大広間の四方に廊下を廻し、屋根は、鉄平石でふいています。

旧遥拝殿は、天皇下賜と伝える二本の磨き床柱を、正面床の間に安置した40畳敷きの礼拝所で、三方に廊下を廻した観音堂風の伝統建築です。

工房棟は、宿泊所として使われたもので、研修・遥拝・宿泊に用いた三棟が揃って残り、大変貴重です。

日置市美山玉山神社伝来資料

慶長10（1605）年頃に創建したとされている玉山神社の伝来資料の中には、既に現在では失われた苗代川の独特の祭事に関わるものがあり、陶磁器や幟（のぼり）の紀年銘から、その信仰が近代にも継承されていたことを示しています。

玉山神社の伝来資料は、近世苗代川という薩摩藩の異化政策により朝鮮習俗を色濃く残す特異な性格を持つ集落の特徴を、神社伝来というまとまった形で今に伝えているという点で、鹿児島県の歴史的文化財として、極めて貴重な価値を有する資料と評価できます。

面縄貝塚出土品

今回指定された面縄貝塚出土品は、縄文時代を中心とする土器、石器、骨製品、貝製品など130点です。

面縄貝塚は、徳之島の南端に位置し、奄美・沖縄地域の縄文時代における遺跡の立地や構造を示す典型的な集落遺跡で、九州島と沖縄地域の関係性の解明にとって重要な遺跡です。その出土品は、集落の生活跡及び埋葬人骨に伴い、内容が多面的であり、約7,000年前から約1,400年前に至る長期の変化を示す資料として他に例が無く、奄美群島の先史時代編年の基準資料を4型式含むなど、学史的に価値が高く重要です。

天然記念物（1件）

種子島のハナサンゴモドキ

種子島のハナサンゴモドキは、体内に褐虫藻を共生させる造礁サンゴのなかまで、明るい緑色、褐色及びそれらが混ざったものがある色彩の美しいサンゴです。

本種は、種子島を模式基産地として、国内では種子島の狭い範囲に分布する東アジア海域の固有種と考えられています。波当たりの弱い内湾域の水深10m以浅の海域に生息しており、繁殖方法が、多くのサンゴは雌雄同体であるのに対し、オスとメスの区別のある雌雄異体であるのも特徴です。

天然記念物及び名勝（各1件）

番所鼻の溶結凝灰岩の環状プール群

番所鼻に見られる環状プール群をつくる地形は、約11万～10万年前に巨大噴火を起こした阿多カルデラから噴出した阿多溶結凝灰岩の下部の非溶結部が侵食され、陥没したものと考えられ、南九州の地質学的な歴史を示すものとして貴重です。

また、遠くに見える開聞岳と海のコントラストがすばらしく、名勝としても価値がある場所です。



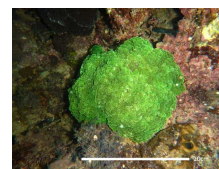
▲霧島民芸村（展示販売棟、旧遥拝殿及び工房棟）



▲日置市美山玉山神社伝来資料



▲面縄貝塚出土品



▲種子島のハナサンゴモドキ



▲番所鼻の溶結凝灰岩の環状プール群